

茶室覚書

千利休 京都 妙喜庵 1582 待庵
二畳上座床 国宝 たいあん

外観：柿葺切妻造りの南側に深い土間庇を付け下ろす。
床：入隅から天井まで塗回した室床。
床柱：杉の丸太で見付けの面が落掛近くまでつく。
床框：桐の皮付丸太に三つの節
壁：隅炉の入隅を塗回す 藁すさを残したの荒壁仕上げ
天井：床前と手前座 ノネ板・細竹二本打竿縁天井
躰口側 化粧屋根の駆込天井 下がり壁に「待庵」の額
下地窓：皮付の葎だけでなく横の通り一カ所に一本割竹

- ・現存する最古の草庵茶室 天正十年山崎合戦の折、秀吉が利休に作らせたとも伝えられる。
- ・書院に付属して南向きに建つ。最初の躰口で通常より大きく高さ2.11尺 幅2.66尺。
- ・茶室から二本立ての太鼓襖を隔てて、次の間二畳に一重棚、脇に八寸幅の板。畳勝手一畳に三重棚。
- ・東壁面は二つの下地窓が掛障子と片引障子による敷居、鴨居戸当りによる壁面区画が美しい。

